

草津市社会福祉協議会 未来へつなぐメイン事業の紹介

「ピカッと草津」
～在宅サービス訪宅時の駐車場
問題から理解を広げる～



法人・事業所連携事業
(法人連携)



ボランティアマルシェ



草津市社会福祉協議会の特徴



基本理念

「誰もが こころ温かく支えあい 住みつづけたい 福祉のまちづくり」



5 4 事業を展開

県内で唯一、介護・障害サービス事業所をもたない、
地域福祉活動推進に特化した社会福祉協議会



70年間地域に寄り添って、地域と一緒に活動を展開してきた

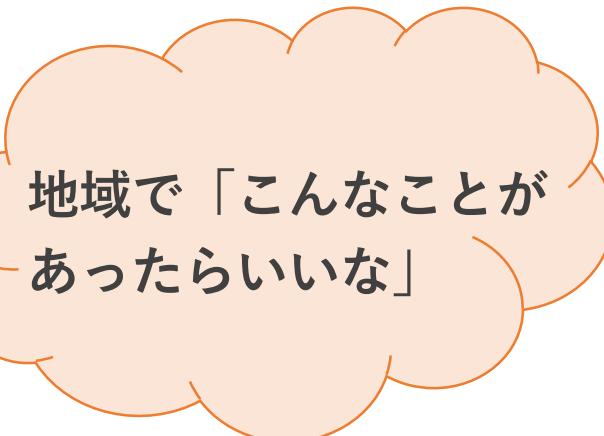
生活支援体制整備事業第2層協議体「医療福祉を考える会議」²

★目的：住民の暮らしの問題を我が事と捉え、
共感して多くの住民へ共鳴の輪を広げていくこと。

地域住民（学区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、町内会長、各種団体等）

医師・介護事業所・地域包括支援センター・行政・市社協などが語り合う。

生活支援コーディネーターを設置し、小学校区域で展開している



助け合い活動を広げる

カフェの立ち上げ、地域支え合い運送支援事業の開始、声掛け訓練の実施など



第42回滋賀県社会福祉学会奨励賞受賞

3学区モデル事業
「ピカッと草津」について



在宅サービス訪宅時の駐車場問題から創る
地域包括ケアシステムの構築
～生活支援体制整備事業の新たな地域づくり～



在宅化が進んでいく背景①

厚生労働省
厚生労働省

令和2年 都道府県別生命表より
健康寿命の令和4年値についてより

4

滋
賀
県

| 平均寿命（R2） | | 健康寿命（R4） | |
|----------|--------|----------|--------|
| 男性 | 女性 | 男性 | 女性 |
| 82.73歳 | 88.26歳 | 73.19歳 | 75.82歳 |
| 全国1位 | 全国2位 | 全国7位 | 全国14位 |

| 日常生活に制限がある期間（R4） | |
|------------------|--------|
| 男性 | 女性 |
| 9.10歳 | 12.12歳 |
| 全国41位 | 全国39位 |

- ・平均寿命と健康寿命の差が大きいつまり介護サービスが必要な期間が長い

草
津
市

| 要支援・要介護認定者 | |
|------------|--------|
| R1 | R4 |
| 4,864人 | 5,552人 |

688人増加

| 在宅サービス利用者 | |
|-----------|--------|
| R1 | R4 |
| 1,074人 | 1,310人 |

236人増加

草津市の学区別要支援・要介護認定者と訪問サービス利用数より引用

- ・これからサービスを受ける高齢者は増加していく

在宅化が進んでいく背景②

滋賀県民の

高齢者

人生の最期を迎える場所「自宅」

4割以上

令和4年度 滋賀の医療福祉に関する県民意識調査より

草津市民の

障害者

自宅で生活している方が8割
今まま生活したい
家族と一緒に暮らしたい
8割以上

第2次草津市障害計画
アンケート調査結果等からみえる課題と方向性より

在宅で健幸に暮らし続けたい！

住み慣れた地域で暮らし続けるために必要なことは？

高齢者 障害者

6

○介護する家族の負担の軽減

80%

○入浴・排せつ介護などの
訪問サービス

52%

●家族や親せき、地域の人々の理解

57.8%

令和4年度 滋賀の医療福祉に関する県民意識調査より

○必要な福祉サービスが適切に利用
できること

64.2%

●障害者にとって住みやすい家が
準備されていること

33.4%

●相談できる場所や人等が充実している事

50.7%

第2次草津市障害計画
アンケート調査結果等からみえる課題と方向性より

サービスの充実と地域の理解どちらも必要！！

「在宅サービスを提供する事業所を応援する地域」 を目指して

介護保険制度・施策などの
サービス

例えば・・・

訪問介護（ホームヘルパー）や
訪問看護・デイサービス・
デイケアなど



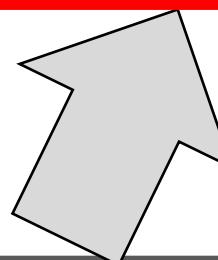
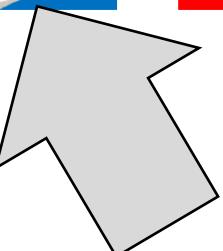
地域の支え合い活動・理解

例えば・・・

ボランティアや家族、近隣住民、
町内会や民生委員・児童委員による
支援など



在宅サービスを提供する事業所
を応援する地域づくり



地域福祉活動の構築

第2層協議体 「医療福祉を考える会議」

事業所困りごとアンケート (駐車場問題に関する項目のみ一部抜粋) 8

| | | |
|---------------------------------|--------------------------------|---|
| 訪問の際、駐車場に困ったことがありますか | 33/36 事業所 (92%) | <ul style="list-style-type: none">・道が狭く車が入れないため、他のところに路上駐車している・道幅が狭く迷惑をかけていないか心配・複数の事業所で伺う際、車が多くなるため停めるところがない・駐車場がない場合、コインパーキングに駐車するかコインパーキングもない場合は、利用をお断りしている |
| 駐車違反の罰則をうけたことはありますか | 11/36 事業所 (31%) | |
| 事業所の車を家の前に停めないでほしいと言われたことはありますか | 17/36 事業所 (47%) | <ul style="list-style-type: none">・用具の搬入時、近所から家族に苦情が入った・介護サービスを受けている事を近所に知られたくない・事業所名が入った車は停めないでほしいと言われた・介護サービスを受けている事が恥ずかしいと言われた |

「在宅サービス訪宅時の駐車場問題」 (36事業所回答)
「サービスに対する地域の理解不足」

草津市の駐車場問題の事例

9

- ① 3km離れたところに雨でも暑い中でも自転車で訪問看護
- ② 駐車場が確保できない方はサービスの提供を断らなくてはならないケースが出てきている
- ③ ケアマネジャー、ホームヘルパー、訪問看護師、訪問医が最期のお見送りに行くと近所の苦情からすべて駐車違反の切符が切られた



こんな出来事知っていましたか？

在宅サービス訪宅時の駐車場問題は全国で起きている！

埼玉県

- ・緊急で患者の家の前に停められたら、**助かる命**もあった。
- ・警察署に発行してもらう**駐車許可証の効力が薄い**
- ・医療関係の車と分かっていて**通報**される。
- ・警察から許可をもらっても、近所の方から**クレーム**があり、**地域住民や世の中の理解**が必要と感じる。
- ・**精神的に追い込まれ**ながら、違反切符を切られてしまうと、在宅医療を推進されながら、**自腹**を切りながら、点数も引かれ、**モチベーションが下がってしまう**。

埼玉県看護連盟 利用者宅訪問時 駐車場状況アンケート結果より

在宅医療において最も問題になるのは、駐車場問題。

訪問診療、訪問看護に一体どれほどの**荷物**があると思っているの？

時に**20kg以上の機材**を運んでいるのに、それを運ばせようっての？

そもそも、緊急事態の時にその移動時間で**手遅れ**になるかもしれないのに。

苦労して申請した許可証も万能ではない。

訪問診療、看護、リハビリテーションは、動けない人の元へ**駆けつける医療**。

お隣やその隣のお家の前でもとめてもいいですよ、っていう許可をしてほしいな。

北海道

ケアマネジャー・事業所の声

- 認知症の高齢者の方の対応は
想定外の時間がかかることを知ってほしい
- 温かい目で見守っていただける雰囲気づくりを
してほしい
- 支援を受けることは恥ずかしいことではない
ことを理解してほしい



地域の意識を変えてほしい



段階的に意識を変える「気づきの物語づくり」



Story 1 在宅化の現状を知る

ゲームなども取り入れながら

- ・在宅高齢者が増えていく
- ・サービスの必要性と地域理解の大切さ



Story 2 事業所の困りごとを知る

- ・事業所が地域に求めること
- ・事業所の思い

- ・事業所が地域に求めること
- ・事業所の思い



Story 3 地域でできることを考える

- ・利用できそうな駐車場をみんなで出し合う



Story 4 ・・・つづく

できることを形にしていく

- ・利用できそうな場所に呼びかけを行う
- ・地域助け愛応援駐車場リストを作成
- ・地域から事業所へ贈呈



3年かけて・・・

成果

住民意識の変化から「我が事」となった地域福祉活動の展開へ

公共機関（まちづくりセンター・隣保館など）

自治会館・町内所有の空地

事業所

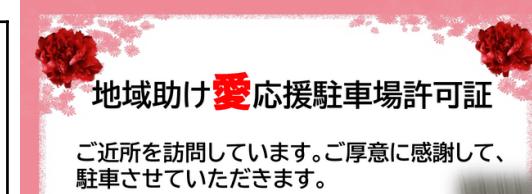
民間企業・団体

個人宅

企業

など

**地域助け愛応援駐車場
約80か所約200台分**



ご近所を訪問しています。ご厚意に感謝して、駐車させていただきます。



・まちづくりセンターで
電動自転車の導入

・町内会長が自治会館・空き地を
使用できるように**回覧**で呼びかけ

・**モデル学区以外**の町内会長が
理解を住民に呼びかけ

・**事業所同士**の助け合いの声

・新たな学区で取組み



成果

地域と事業所の関係性の構築から駐車場を活用できるしくみが展開

| モデル学区 | 在宅サービスの理解の広げ方 | 駐車場(地域からの宝物)の運用 | 備考 |
|---------------------------|--|--|--|
| 笠縫東 地域と地域 連携 | 同じテーマで進めていても、それぞれの学区の特徴に応じて、進み具合や方法を変化しながら進めていった | まちづくり協議会が実施 | コーンとカードを渡す。範囲は、 市内全域の事業所 からスタート |
| 老上・山田 地域と事業所 連携 | 事業所がGoogleマップを使って実施 | 事業所同士が連携し、Googleマップで管理。範囲は、 学区内事業所 からスタート | |



笠縫東：掲示が付いたコーンの貸出



老上・山田：Googleマップを更新、共有



成果 他学区への地域福祉活動の広がり

| 町内会や他学区でも | 在宅サービスの理解の広げ方 | 駐車場の運用 | 備考 |
|-------------------------------------|--|-------------------------------------|---|
| 桜ヶ丘 町内会 (700世帯) | 自治会の取り組みとして実施 | 町内会で管理し、必要な事業所へ許可する | 町内会長が窓口 範囲は、町内会世帯へ在宅サービスを提供している事業所 |
| 矢倉学区 自治連合会 (12町内会 3,958世帯) | 学区の町内会長会でアンケートを実施し、活用できそうな駐車場の掘り出しや呼びかけ | 町内会からまちづくりセンターへ依頼し、まちづくりセンターで運用管理する | 地域の在宅サービスへの理解を広げるだけでなく、すぐに全町内会招集し、企業などに駐車場の確保を進めている |
| 志津南学区 | 令和7年度から医療福祉を考える会議にて実施を開始 プレ会議にて協議を重ねている | | |
| 大路区 | 令和7年度から医療福祉を考える会議にて実施を開始 ピカッと草津をテーマに新たに「医療福祉を考える会議」が立ち上がる | | |



「ピカッと草津」を経た事業所の声（老上学区事業所アンケートより）

- ・駐車場を探すことが少なくなりました！
- ・心の負担が減りました！
- ・大変さを理解してくださって
「全面的に協力するよ」という言葉をもらいました！

- ・どうぞ停めてねと声掛けをしてくれるようになった！
- ・今まででは、承諾なく駐車していることに気が引いていたけど借りる際、声掛けしやすくなった。

地域と事業所の関係性の構築



- ・この取組を関係者や利用者の方にお話して理解を広げている
- ・挨拶、お礼、笑顔、マナーを守って感謝の気持ちは
忘れずに活用しています

専門職の負担の軽減

地域のサービスへの理解

生活支援コーディネーターとして見えてきたこと

①地域と事業所の関係性が構築できる場の重要性

ありがとうの
循環型地域づくり

適切なサービスを
提供したい

事業所

地域

気持ちは一緒のはずなのに関係性は…?

★通報される側と通報する側の関係性



適切なサービスを
提供してほしい

専門職不足の深刻化にも影響

訪問看護師

2020年

6.8万人

2025年

11.3万人 (需要見込み)

4.5万人不足

介護士

2022年度

215.4万人

2040年度

272万人 (需要見込み)

57万人不足

・看護職員確保の取組について 厚生労働省

・第9期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について 厚生労働省

地域と事業所の関係性の構築

→ 在宅医療・介護を支える専門職の負担軽減

生活支援コーディネーターとして見えてきたこと

②住民の意識の変化が地域づくりの基盤である

- 持続可能かつ効果の対象を問わない公益性が高い住民主体の福祉活動の創出
- 「暮らしに密着した協働のつながり」の構築



法人・事業所（法人連携）連携事業の取組のきっかけ 19

多種多様な機関とつながる社協だからこそ
つなぐ役割ができるのではないか



福祉事業所

- 専門職が不足
- 地域との連携不足
(災害等を含め地域の助けが必要)

地域

- 担い手が不足
- 支え合いの仕組みが必要

民生委員・児童委員

福祉委員

ボランティアセンター

学区社会福祉協議会

日赤奉仕団

多様な活動へつながる

第一回法人連携にかかる検討会議

日時:令和6年3月28日(木)10:00~11:30

連携の意味、法人連携で取り組んでみたいこと

市社協が取組を独自で進めていると聞いて前向きに協力したい

施設でずっと勤務していると、視野が狭くなってしまう。連携会議を通じて、いろんな職種や分野を知ることで、職員も勉強になると思う。

法人としては、障害のある人と地域をいかにつなぐかが大切

地域と障害のある人をつなぐために、障害のある人が地域となごむ場がもっと必要なので、寄り合う必然を作りたい

いかに市社協を使うか、使えるか、と法人に思ってもらいたら参加事業所も増えるのでは?

地域の活動者が高齢。引退されたら、バラバラになってしまう地域を強くしていく必要がある

法人の関心が高くない。なかなか地域貢献の面では対応できていない

他の法人や事業所や、地域と繋がっていきたいとは思うので、法人連携を始めるのであれば、会議だけではダメ。行動に移す必要がある

市社協事業(善意銀行等)の取組をもっと活性化して、地域の様々な資源を循環させ、支えあう仕組みをつくってはどうか

専門職の力を活かして地域の出向き講座等の協力

法人連携会議内の事業所の心音

第二回法人連携にかかる検討会議

日時:令和6年9月12日(木)13:30~15:00

地域に協力していること、こんなことができたら

事業所へ地域にもっと来てもらえる仕組みを作れたら

市域で何かシステムづくりをして、何か取組めることがないか

利用者の関心とマッチできれば、組織などの体験を受け入れることも可能では

社会福祉法人だけでなく、もっと広くつながるのは?

市社協事業を事業所にもっと活用してもらえる仕組みにしたい

みんなでお祭りをしてみたい

従業員の満足度を上げる取組が必要

パン販売を通じて利用者が交流。事業所の得意をすみわけして地域に出向くことができるのでは

折角つながりを作るなら、継続を

組織作りを地域に出向き利用者が教えている利用者の社会参加の機会を作りたい
もっと地域に出向く機会を作りたい

縦割りを外して一緒に取組めることは無いか?一緒に考えていきたい

法人と地域のコーディネートはだれがする?
連携・協力ならできるかも

ゆるやかな地域のつながりが大切

大学の福祉学部が減ってきてる→人材不足深刻→大切 親世代への福祉をPR

福祉に関心を持つ人を増やして、職業選択肢の一つにしてもらい、かつ草津に帰ってきてもらいたい

コーディネートは市社協の強み、声を積み上げて仕組づくりを形にしたいする

法人連携会議心音が書き 来年度は一步を踏み出す語りをカタチにしてみる

感動を旨で共有したい輝

社会福祉法人が抱える課題

- ①人材不足の深刻化
- ②施設や地域に出向いてほしいがどこに何をお願いできるかわからない
- ③法人・福祉施設間での連携・つながりたいが機会がない

法人連携を通じて今後の目指すところ

専門職の人材確保

地域住民や専門職の人材育成

法人連携を活かしたネットワークづくり

社会福祉法人間のネットワークづくり

- ・市社協の善意銀行の仕組みを拡大した法人連携版善意銀行で、社会福祉法人が必要とする寄付の募集や配分を実施し、市社協を中心としたつながりづくりを進める

地域住民への“身近な福祉”の啓発

- ・法人連携の協力法人・事業所における得意や専門的な知識を生かした“出前講座”で地域で実施される様々な活動に協力いただいたり、医療福祉を考える会議等への参画を進める

若い世代へ“福祉”に関心をもってもらう

- ・法人連携の協力法人・事業所における得意や専門的な知識を生かした“福祉教育”を通じて、小学生から高校生に向けて”福祉”をより身近に感じてもらう、考えてもらう機会をつくる

専門職の人材確保

- ・大学生と企画する福祉フェアで、草津の福祉の魅力をアピールし、草津市内で福祉人としての就職を後押し

専門職が“やりがい”を感じてもらう

- ・地域とのつながりや、他事業所との交流で、専門職としての“やりがい”を感じてもらう



法人連携×ボランティアマルシェ



約600人
来場



ボランティアマルシェの目的

(1)ボランティアのきっかけづくり・活性化

(2)福祉を通して幅広い視野を持っていただく

(1) ボランティアのきっかけづくり・活性化

①若い世代のボランティアの参画

R5年度 20人
R6年度 25人
R7年度 38人



ボランティアマルシェに参加した学生ボランティア

②ていねいな伴走型のボランティアの育成

ボラ活enjoy会の実施

事業所、ボランティアグループ、学生同士つながる



交流会の実施

みんなで感じたことを共有し学びにつなげる



(1) ボランティアのきっかけづくり・活性化

③新しく学んだ人（教養大学卒業生）が担い手へ

交流会&イベントの準備



草津市福祉教養大学

卒業生 112名

受講者 延べ 1, 323名



当日のお手伝い



④既存ボランティアグループの活性化

ボランティア同士の交流



多種多様なボランティアグループ



活躍の場

(2) 福祉を通して幅広い視野を持っていただく

①孤独・生きづらさをなくす支援

- 日常生活に葛藤を抱える方（ひきこもり）への支援



NPO法人滋賀県社会就労事業振興センター
草津学区社協活動拠点ゆかい家

ひきこもりなど日常生活に葛藤を抱える方の居場所にてふくちゃんボールペンの作成協力を依頼し、謝礼をお渡しすることで社会参加の一歩へ

- 学校へ行き渋りがある子どもと親への支援

階段を利用し鉄道検定クイズ



よもとカフェ

学生Vと一緒に
オリジナルカードづくり



思いを伝えるコーナー



(2) 福祉を通して幅広い視野を持っていただく

② 法人連携×ボランティアマルシェ

なりきり写真館



組紐体験



滋賀県立むれやま荘

高齢者疑似体験



介護食体験



車椅子・介護ベッド体験



介護リフトノーリフト体験



特別養護老人ホームやわらぎ苑
事業所から学生へ 学生から子供達へ
福祉共育の連鎖の輪の広がり

特別養護老人ホームえんゆうの郷
福祉のイメージが変わる！ 福祉の人材育成

学生ボランティアアンケート結果

ボランティアマルシェの運営ボランティアに参加してよかったです

R7年度 38名全員が「はい」



満足度100%

今後他のボランティア活動にも参加したいと思いましたか

38名全員が「はい」



ボランティア継続性
100%

今回参加して、福祉の仕事に興味を持ちましたか？

38名中31名が「はい」

未来に福祉の種をまく
82%



学生ボランティアの参加してよかったですの声 アンケート・交流会の声より(1)

※一部抜粋

- ・前よりも自分から話すことの苦手意識がなくなった。
- ・普段関わりがない他校の友達ができたり、大学の先輩と仲良くなれた。
- ・お金で買えない経験や感情をもらえた。
- ・福祉、ボランティアのイメージがガラッと変わった！
- ・子どもにどう分かりやすく伝えられるか考えるのが楽しかった。
- ・多世代の方と関わることができて、自分自身成長を感じることができた！
- ・知らない人と話すことが少し苦手だったけど、ちょっとだけ話すのが得意になった。
- ・教師になりたいという夢に今回の経験が役に立った。

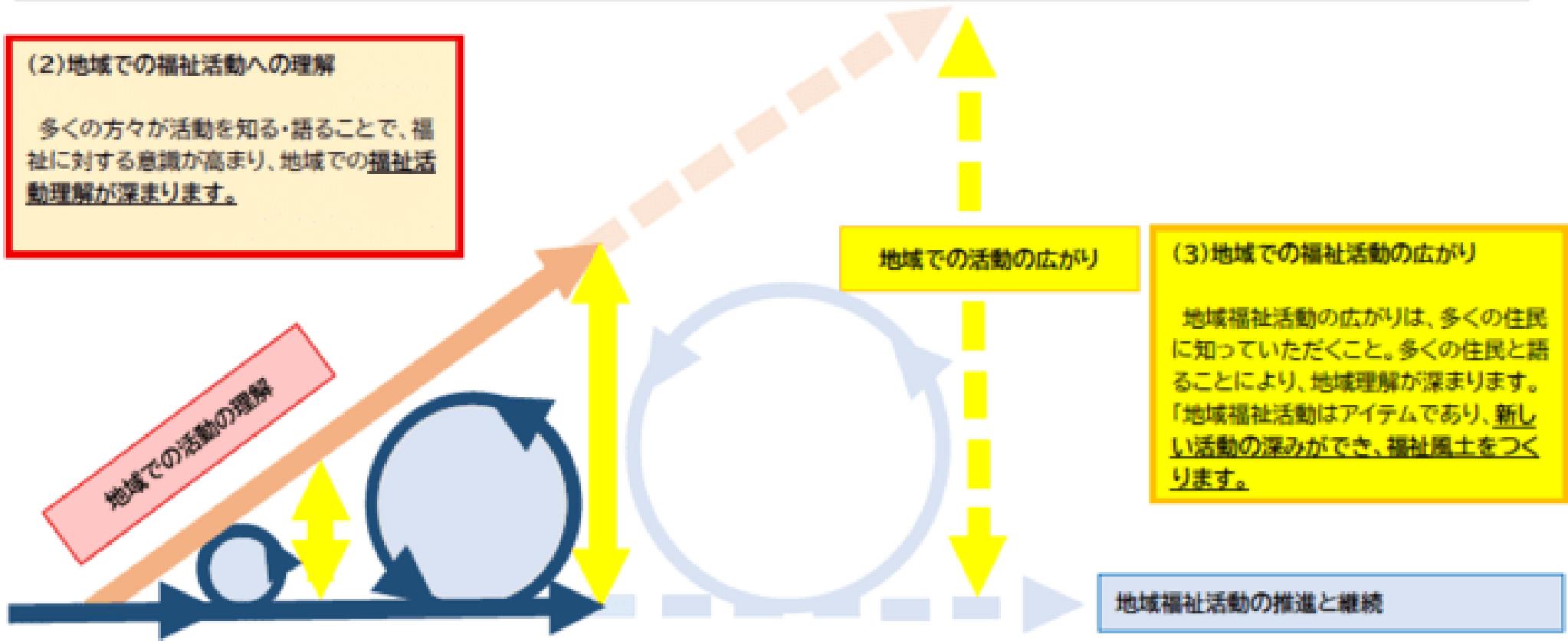
学生ボランティア 事業所と関わってみて アンケート・交流会の声より(2)³⁰

- ・車椅子を押すのが難しかったが、**福祉の仕事に就いている人のすごさ**が分かった。
- ・高齢者疑似体験をしてみて、動きにくくて驚いた。
高齢者のためにできることを考えたいと思った。
- ・組紐体験で利用者の方が最初は話すのが難しいのかなと思ったが、しっかり順番通りに教えてくれた。
関わってみて**利用者さんのイメージが変わった。**
- ・車椅子は乗っている人は楽だと思っていたが、押す人も乗る人も、大変だということが分かった。
体験してみないと分からなかった。
- ・進化した車椅子を初めて体験して、こんなに**福祉が発展**していることを知った。この発展をもっと発信できたら福祉のイメージが変わると思う。
- ・**福祉のお仕事に将来就きたい**と興味をもっていたが、福祉のお仕事はすべて力仕事だと思っていた。こんなに技術が進んでいることを知ってとても勉強になった。
- ・知識はあったが、どう使うのかなど教えてもらって、**聞くことと、実際に触れてみるとでは全然ちがう**など感じた。

地域福祉活動は、活動継続と活動発信である広がり(啓発活動や地域を巻き込むこと)により地域理解が深まる。その循環で地域に活動の種となり、多様な活動の花が咲き始める

(2) 地域での福祉活動への理解

多くの方々が活動を知る・語ることで、福祉に対する意識が高まり、地域での福祉活動理解が深まります。



(1) 地域福祉活動は継続することが大切

地域福祉活動を進めていく中で大切なのは、活動を啓発し、多くの住民と時間をかけて語ることにより、住民同士のつながりを深めることができ、継続性が担保されていく。

どんどん進めることも大切であるが、少し戻りながら「活動を啓発し、多くの住民と時間をかけて語ることにより、住民同士のつながりの輪が広がります。そこには、必ず地域の福祉活動理解が深まり、地域の福祉風土も広がっていきます。

ご清聴ありがとうございました

